

▼ 活動目的 「みんなのことにみんなが協力する社会」

問題発見・解決の主語を「彼ら・誰か」ではなく「私・私たち」として取り組む仲間を増やします。

▽ 1. 予備知識

■ 1.1 「問題発見・解決のフレームワーク」

活動の際に使用する「問題発見・解決」という単語は「問題発見・解決のフレームワーク (図1.)」を表現しています。

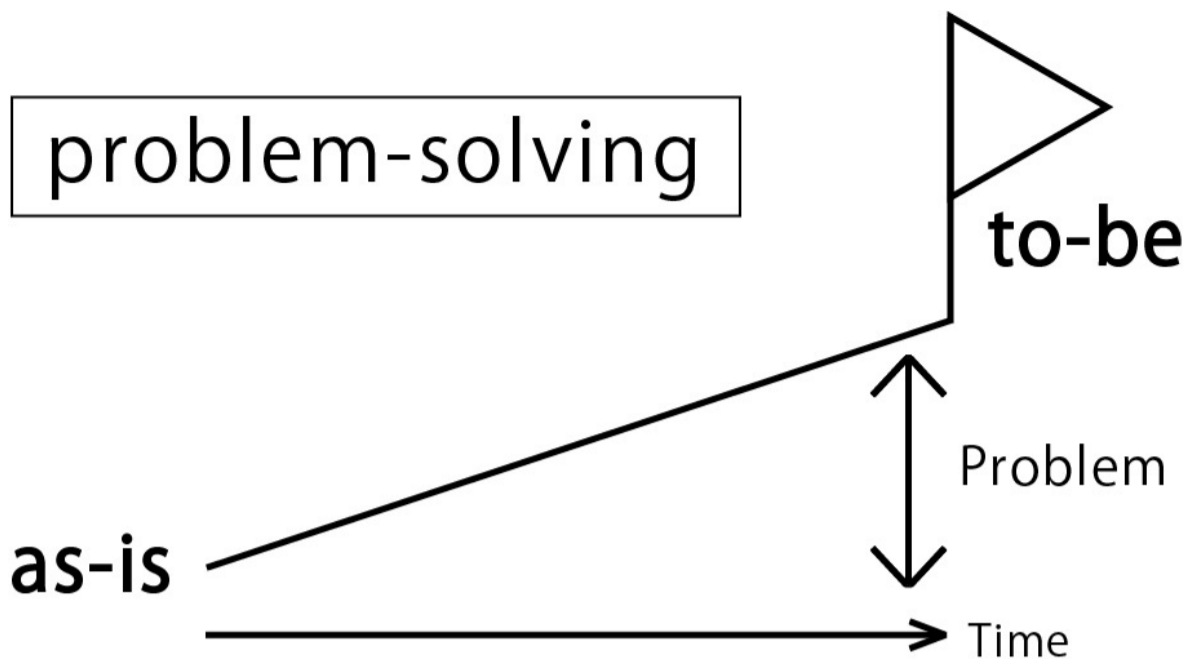


図1. 問題発見・解決のフレームワーク

■ 1.2 「管理」

管理には「支配 / 操作 / 評価」を道具として用いる場合があります。

支配の道具は以下の通りです。

- 力...資源, 資質, 恐怖
- 規則...慣習, 法律, 規範
- 構造...血縁, 体制, 国家 など

操作の道具は以下の通りです。

- 報酬...金銭, 承認, 褒める
- 制裁...疎外, 暴力, 叱る など

評価は問題発見の機会を奪ってしまうことがあるため注意が必要です。

▽ 2. 「みんなのことにみんなが協力する社会」

Cafe de 寺子屋 は「みんなのことにみんなが協力する社会」の実現を目指しています。事業を通して得たい成果を「個人 / 地域・日本 / 社会」に分けて記載します。

■ 2.1 個人

主語を「私・私たち」として問題発見・解決している個人でも、管理の中で問題発見・解決を繰り返す過程で、主語を「私・私たち」ではなく「彼ら・誰か」として問題発見・解決することを学習することがあります。

しかし、管理を減らし、主語を「私・私たち」として問題発見・解決する機会を増やすことで、再び、主語を「私・私たち」として問題発見・解決することを学習することがあります。

個人の「みない・きかない・いわない」から「みる、きく、いう」への変化が得たい成果です。

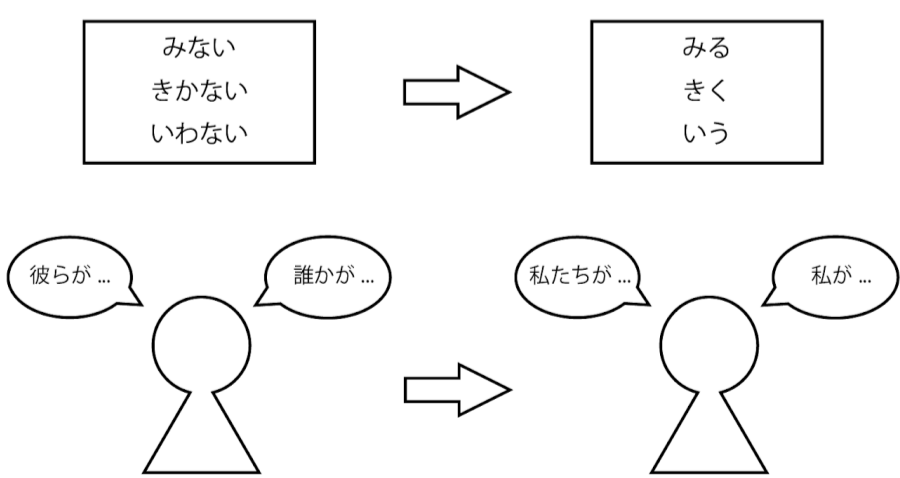


図2. 「みない・きかない・いわない」から「みる、きく、いう」への変化

・問題発見・解決 (problem-solving)

1. 問題発見

- ①...理想の状態 (to-be) を定義
- ②...現在の状態 (as-is) を分析
- ③...問題 (problem) を特定

2. 問題解決

- ④...解決策 (solution) を探索
- ⑤...解決策 (solution) を実行

・管理

「私・私たち」の問題解決のために、「彼ら」の問題発見・解決に干渉すること

・支配

差異と価値を結びつけて上下関係をつくり、問題発見・解決に制限をかけること

・操作

「彼ら」の問題発見・解決を、「私・私たち」の都合のよい方向に誘導すること

・「みんなのことにみんなが協力する社会」

人びとが、主語を「彼ら・誰か」ではなく「私・私たち」として、問題発見・解決に取り組んでいる状態

・学習 (learning)

個人とヒト・モノ・コト (環境) の相互作用の中で問題発見・解決に取り組む過程で、世界に対する解釈・理解 (認識) が変化すること

・「みる、きく、いう」

こころの働きを抽象化した合い言葉

みる...観察、考慮、見守る  
きく...傾聴、質問  
いう...表現、意見、行動

■ 2.2 地域・日本

「■ 2.1」の手段として、「寺子屋(▽ 3.)」を運営し、活動を全国に広げています。  
活動の際に **組織運営「みる、きく、いう」**を意識します。

スタッフ・子ども・保護者さん・店主さん・応援して下さるみなさまを中心に  
「みる、きく、いう」が地域に広がる(図3:左)こと・寺子屋が全国に広がること(図3:右)が成果です。

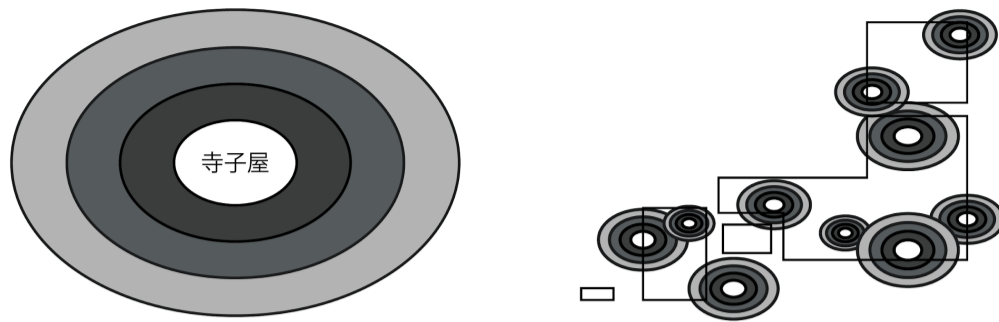


図3. 地域 / 全国 への広がり

■ 2.3 社会

「みる、きく、いう」が広がり「みんなのことにみんなが協力する社会」が実現します。

一人ひとりの行動が変わって、小さな変化がいくつも起きます。  
その変化が "みんな" になれば、大きな変化となり、「社会課題」と呼ばれているものなくなるかもしれません。

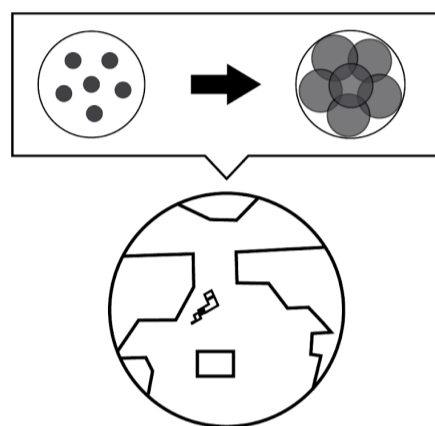


図4. 「みんなのことにみんなが協力する社会」

▽ 3. 「寺子屋」

「寺子屋(図5.)」のコンセプトは「地域でいちばん心地よく、自学自習ができる場所」です。  
子どもたちの「みる、きく、いう」を育みます。

寺子屋は、スタッフ・子ども・保護者さん・店主さん・応援して下さるみなさまと力を合わせて運営します。  
それぞれの役割は異なりますが、お互いに対等な存在です。

子どもの役割は、主語を「私・私たち」として自学自習に取り組むことです。  
スタッフの役割は、脱・管理や配慮・対話を通じて、子どもの自学自習を支援することです。

子どもは「"ひとりでできること"/"みんなとならできること"/"できないこと"」のうち、「"ひとりでできること"」に  
ひとりで取り組みます。  
スタッフは、子どもの「"みんなとならできること"」のみに関わり、「"ひとりでできること"」を広げることを目指し  
ます。

いまは「"できないこと"」でも、経験を通じて「"みんなとならできること"」に変化します。  
また、「"みんなとならできること"」も「"ひとりでできること"」に変化することを考慮して関わります。

詳しくは、[教育方針「教えないで教えよう」](#)を参照してください。

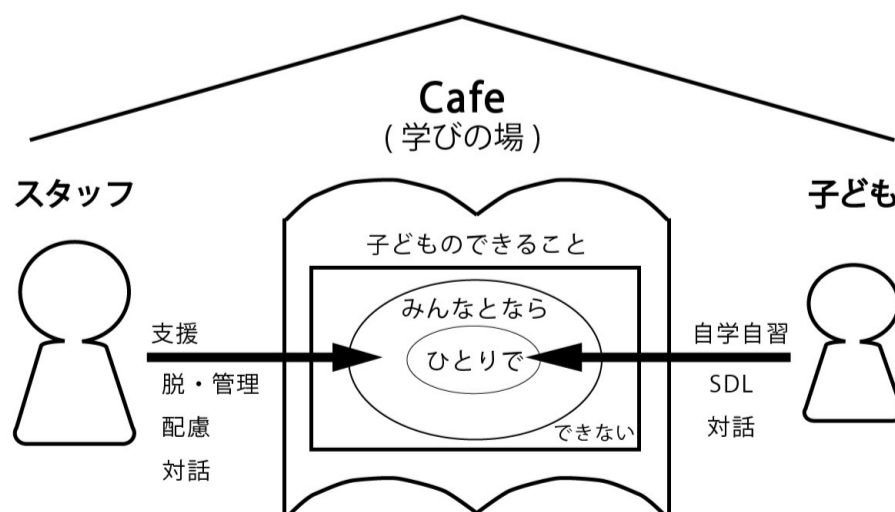


図5. 「寺子屋」

- ・ 対等
  - お互いにひとりの人間であること
- ・ 自学自習 (self-learning)
  - 自主学習 (SDL)
  - + 対話 (dialogue)
- ・ 自主学習 (Self-Directed Learning = SDL)
  - 学習者が自ら目的を認識し、計画・意思決定・コントロールに取り組む学習形態
- ・ 支援 (assist)
  - 主語を「私・私たち」として、問題発見・解決に取り組む機会を提供すること
- ・ 脱・管理
  - 主語を「彼ら・誰か」として、問題発見・解決に取り組むことがないように、管理を減らすこと
- ・ 配慮 (coordinate)
  - ヒト・モノ・コト (環境) を調整すること
- ・ 対話 (dialogue)
  - お互いの見ている世界についての解釈・理解を重ね、物語 (narrative) を紡ぐこと
- ・ 物語 (narrative)
  - 「私」の見ている世界についての一連の、変わりゆく解釈・理解 (#story)

- ・ "ひとりでできること"  
(without assistance)

主語を「私」として問題  
発見・解決ができること

- ・ "みんなとならできるこ  
と" (with assistance)

支援があれば実行できる  
問題発見・解決

- ・ "できないこと"

支援があっても実行でき  
ない問題発見・解決